

厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患等生活習慣病対策総合研究事業)

日本人2型糖尿病患者における生活習慣介入の長期予後効果

並びに死亡率とその危険因子に関する前向き研究

(Japan Diabetes Complications Study; JDCS)

平成25年度 分担研究報告書

本研究を含む糖尿病の大規模臨床研究への期待と提案

荒木 厚 井藤 英喜

(東京都健康長寿医療センター糖尿病・代謝・内分泌内科)

**研究要旨**

糖尿病における血管合併症の予防、進展抑制を目的とした JDCS 研究を含む糖尿病の大規模臨床研究の成果を踏まえ、従来の危険因子以外にライフスタイルの運動、食事、心理が糖尿病合併症の危険因子として重要である。今後、そうした糖尿病合併症のリスクエンジンが作成することが必要であると思われる。

**A. 目的と研究方法：**JDCS 研究は、我が国の糖尿病患者における血管合併症の危険因子について検討してきた。そこで、JDCS 研究のみならず、高齢糖尿病患者の J-EDIT 研究の成果も加えて、血管合併症の危険因子の特徴を見出し、糖尿病の大規模臨床研究への期待と提案について考察を加えてみた。

**B. 研究結果と考察：**JDCS 研究では身体活動量の低下が、他の従来の危険因子を調整しても脳卒中や死亡のリスクであった。また、果物の摂取が従来の危険因子を補正しても網膜症のリスクを減少させた。J-EDIT 研究でも同様に、身体活動量の低下は脳卒中発症と関連した。また、うつ症状が多いことも脳卒中の発症と関連した。JDCS 研究では電話等の介入群は、対照群と比べて、従来の危険因子とは無関係に脳卒中の発症頻度が減少した。

したがって、血糖、血圧、脂質など以外に、ライフスタイルである運動、栄養、心理の状態が糖尿病合併症の発症に直接関与することが考えられる。

**C. 結論：**こうした大規模臨床試験の成果を踏まえ、糖尿病患者が注意すべきライフスタイルを組み合わせた糖尿病合併症のリスクエンジンが作成されることが望まれる。

**D. 実用新案登録：**なし